

---

# Alice

倉庫キャラその1

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

Alice

### 【Nコード】

N3779W

### 【作者名】

倉庫キャラその1

### 【あらすじ】

過去に存在したアリスという魔法使いと、その足跡を辿る旅のお話。

## プロローグ

むかしむかし、あるところに、一人の少女が住んでいました。彼女の名前はアリスといました。

アリスは三人兄弟の末っ子として生まれ、長女でした。

アリスは二人の兄と両親から愛され、すくすくと元気に成長しました。

アリスは力こそ強くありませんでしたが、頭が良く、勉強がよくできました。

アリスはたくさんの本を読み、魔法について勉強しました。しかし、家にある本だけでは物足りなくなつたアリスは、魔法の学校に入ることにしました。

アリスは魔法の学校で常に一番利口な生徒でした。彼女が卒業する頃には、彼女は新しい魔法を作り出すこともできました。

アリスは、魔法の学校を卒業した後、人々に魔法のすばらしさを伝えて回ることになりました。

アリスの教える魔法はどれも簡単で素晴らしいものばかりでした。人々は魔法が使えるようになり、生活は豊かになりました。

人々はアリスのもとにやってきて、もっと魔法を教えて欲しいと頼みました。

アリスはそれに応え、彼らの知らない魔法を教えました。

人々はその魔法を覚えると、またアリスの元にやってきてもっともつと言いました。

アリスはそれに応え、彼らのまだ知らない魔法を教えました。

人々は皆、アリスの教える魔法を使いました。

アリスは長い間、寝る間も惜しんでたくさんの人々に魔法を教えていたのでとても疲れてしまいました。

アリスはとても疲れてしまったので、森の奥、其のまた奥の、人の来ない場所に家を建て、ひっそりと住むことにしました。

しかし、人々はそれでもアリスの家を見つけ、魔法を教えてくださいるようにせがみました。

アリスはとても疲れていて、魔法を使うことが出来なかったので、「また明日来て欲しい」と人々に言くと、ベッドに潜り込んで寝息を立ててしまいました。

人々は少しがっかりしましたが、明日来れば魔法を教えてもらえるという約束をしたので、明日を楽しみに思いながら帰って行きました。

そして次の日、人々が彼女の家を訪れると、

そこには昨日まで家だった木材が置かれていて、アリスの姿はありませんでした。

そして、とうとうそのあとにアリスの姿を見た者は誰もいませんでした。

## 出発 1

「ヒナ」

そう呼ばれ、ヒナは振り返る。

長年お世話になった教会、その前にマザーが立っていた。マザーはいつもと同じ笑顔にほんの少しだけ寂しさを載せた顔をしていた。「マザー、わざわざ見送りにきてくれたんですか」

マザーは胸の前で手を組む。ヒナはそれを見て、いつの間にマザーの手にはこんなに皺が増えたのだろうと思った。

「ええ、大事な子供の旅立ちですから」

そう言って、すこし寂しげに微笑んで見せた。

「ヒナ・アリスリーヴ。かの有名な大魔法使い、アリスと同じ名を冠されたあなたに、精霊の加護がありますよう」

そう言って祈るように組んだ手を掲げた。

ヒナは自分の頬に水が伝うのを感じた。

（ちえ、絶対泣くもんかと思ってたのに）

ヒナは、別れの切なさを押し込め、袖でぐっと涙を拭くと、

「行ってきます！」

と、いつも学校に行くときのように元気よく言って、教会を後にした。

心なしか、彼女の歩は早足だった。

\*

ヒナの住むフォレストタウンは森にほんの少し手を加えただけの町作りをしており、人々は大樹をくりぬいただけの家に住んでいる。ヒナが歩く大通りは煉瓦で簡単に舗装されており、道の両脇には大樹が立ち並んでいる。大樹から伸びた枝葉は大通りを覆うようになっ

ていて、緑のアーチを作っていた。

太陽の光が葉っぱを通して、柔らかな緑の光に成って降ってきている。

この気持ちの良い町にもしばらく戻ってこれないのかと思うと、ヒナは少しだけ寂しくなった。だけれどもこれから旅に出て、新しい世界を巡ることへの期待もあり、複雑な心境だった。

「別に今生の別れなんかじゃないんだから……悲しくなんか……ない」

ヒナは自分に言い聞かせるようにそう言って、足を止める。そして、くると回れ右をすると町に向かって一礼した。

「いままで、お世話に成りました！」

ヒナはたっぷり三秒数えられる長い礼をする。

そして、右肩のバッグを担ぎ直すと、記憶に留めるように町の姿を眺め、再び歩き始めた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3779w/>

---

Alice

2011年10月9日16時02分発行